

Ustream 配信時のクリアな映像と多彩な演出、さらには運用時の省力化を実現

VidiGo Live 連携 Ustream 配信システム

(HD インテグレートドカメラ AW-HE70SW)

株式会社熊本放送 様



VidiGo Live(左)とAW-HE70SW(右)



メインパーソナリティの奥田圭様を捉えるメインカメラ



熊本市中心街の街並みを撮影



ミキサー卓上のUstream用制御端末。タブレット端末でカメラをコントロール



Ustreamで配信されている映像



生放送中のスタジオの様子(右奥がメインパーソナリティの奥田圭様、右前がアシスタントの方、左端がゲストの方)

1953年にラジオの放送局として設立され、その6年後にはテレビ放送を開始した株式会社熊本放送様は、60年以上の長い歴史を持つ放送局です。ラジオ番組では、2010年にポッドキャストのiTunes Store配信や同局様初のUstream配信、インターネットラジオ「ラジパラ」開始など、次々とインターネットとの融合を展開。多彩なアプローチによる番組提供で、国内的な傾向であったラジオ放送のリスナー離れに一石を投じました。しかしその一方で、本放送以外にかかるコストや手間はできる限り抑えなければならない状況もあり、その両立の方法を模索されてきました。そんな中、同局の朝の番組「奥田圭のさんさんラジオ」パーソナリティ奥田圭様が2014年の九州放送機器展でVidiGo社のUstream配信システム「VidiGo Live」に注目されました。その後、2015年2月に発売した3台のHDインテグレートドカメラAW-HE70SWとあわせたシステムとして奥田様が放送されているスタジオへ試験的に設置。VidiGo Liveと新しいAW-HE70SWの運用は国内初の試みです。AW-HE70SWはUstream配信時のクリアな映像、多彩な演出だけでなく、一部オートメーション化されたことによる運用時の省力化を実現しました。



■お客様の声

Ustreamは、ラジオを“新たなメディア”として認識してもらうための強力な手段です



株式会社熊本放送
報道制作局 ラジオ制作部

部長
田嶋 明彦 様

現在、残念ながらラジオの若者離れが進んでいます。私達はラジオに接触してもらえる機会を増やしたいという思いから、積極的に新しい試みに挑戦してきました。特にUstreamは、ラジオを映像で届けることができるという特徴から、ラジオを“新たなメディア”として認識してもらうための強力な手段として捉えています。もともと独自の配信システムで「ラジパラ」を配信したり、Ustreamに早くから取り組むなど、本放送を補完するインターネットの活用は盛んにおこなっていました。しかし当然ながら本放送が最も大切で、それ以外の作業には手間をかけることが求められます。例えばUstreamのカメラ割りやスイッチングに一生懸命になるあまりに本放送がおろそかになることは本末転倒です。

そんな折、ジャパンマテリアルさんが代理店を務めるVidiGo LiveというUstream配信システムがあることを朝の番組のパ

ーソナリティである奥田圭さんが見つけて来てくれました。私もリスナーへのリーチを広げながらも、運用では本放送への影響を少なくしたいというジレンマを抱えていたため、試しにスタジオに持ち込んでもらいました。撮影はパナソニックさんの業務用カメラで、1台を外の風景、1台を奥田さん、1台をアシスタントさんという形の3カメラ体制にしました。結果として、このシステムは驚くほどに画期的でした。手間がかからず、信頼性があり、私の考えていたことを非常に高いレベルで実現しています。現在当社には、生放送がおこなえるラジオスタジオが3つあるのですが、他のスタジオ、他の番組でも使っていきたくと思っています。

このシステムには可能性があります。“ながら勉強”の復活、というとうと良くないのかもしれませんが、ラジオがいつもそばにある世界を、このシステムを使ってつくり出して行きたいですね。

VidiGo Live連携Ustream配信システム

(HDインテグレートドカメラ AW-HE70SW)

株式会社熊本放送 様

■お客様の声

ラジオ番組をベースにした、リアルタイムでの見える情報共有が可能になります



有限会社ネパランド
代表取締役 プロデューサー
(奥田圭のさんさんラジオパーソナリティ)
奥田 圭 様

5年ほど前、私の朝のラジオ番組が始まった頃、RKKさんでラジオのUstream配信がスタートしました。そのこともあり、私の番組ではラジオ番組のスタートと同時にUstreamを取り入れました。最初は単純なシステムで配信していたのですが、2014年、九州放送機器展でこのシステムと出会うこととなります。面白そうなシステムでどんどん興味が湧いてきて、RKKさんに相談し、実際に活用してみるようになりました。

VidiGo社のスタッフさんは、長い間、私の番組を“見ている”というだけあって、様々な有益な提案をしてくれました。例えば、番組内で系列局の放送を流す際は権利の関係で、それをUstreamに配信することができません。そこで、Ustreamの音声は3秒途切れると自動でスタジオの外を写すカメラに切り替わるプログラムを書いてくれました。ディレクターは操作の必要がなくなります。カメラはパナソニックさんのAW-HE70SWになったため、映像も劇的に鮮明になり、街の様子が良くわかると喜ばれています。また、トーク中はスタジオの空気感も伝えられています。奥行や陰影が分かるため、まるでその場にいるような錯覚にとられるようで、生放送中にいただくUstream視聴者からの

コメントとそれに応える展開も盛り上がります。さらに、画質だけではなく、固定カメラで放送している番組が多い中、回転台一体型のカメラでズームやパン/チルトなど、様々なカメラワークを簡単に行えることは演出の意味でも大きいですね。今のリスナーは目が肥えているので、最初から最後まで固定のワンショットでは飽きてしまいますから。

また、VidiGo Liveはワイプやスーパーも簡単に入れられます。万一の災害時にも例えばリスナーが送ってくれた各地の状況の写真をリアルタイムで出すこともでき、ラジオ番組をベースにしたリアルタイムでの見える情報共有が可能になります。ラジオの使命である情報の素早い伝達という部分でも、映像をプラスすることでそれをさらに高めた形でリスナーに伝えられることができるのです。

最後になりますが、先ほどお話ししたUstreamで配信できないコンテンツの時間帯で、今、アイデアが浮かんでいます。今は外の風景だけですが、今後、県外や外国にいる“視聴者”に向けて熊本の観光案内を流すのはどうでしょうか。つまり、広告枠です。まだまだ面白いことができると思います。夢は膨らみますね。

とにかくシステムインテグレートしやすいカメラ、それがAW-HE70シリーズです



ジャパンマテリアル株式会社
技術担当
ホディノット アンドルー 様

当社はオランダのVidiGo社のシステムの国内総代理店をしています。何年前からはほとんどパナソニックさんのHDインテグレートドカメラを使用するようになったのですが、そこには理由があります。それは、使い方に合わせたシステム構築を柔軟にできることです。具体的には、APIが公開されていることで、お願いしてAPIを公開してもらえカメラが多い中、最初からオープンであることは、プログラミングする立場から見ると非常にスムーズな開発することにつながっていきます。結果として、お客様への提案もスピーディで確実な内容で行うことが可能になるのです。システムに組み込みやすい特長のもうひとつに、TCI/IPがオプションではないことがあげられます。アプリケーションをつくる際、カメラ自体にブラウザにアクセスできる機能を持っているため、開発にストレスがありません。昨年、映像はきれいで当然です。公開APIの機材を組み合わせで新しいシ

ステム、価値をつくり出して行く私達のようなシステムインテグレーターにはこの開発のしやすさこそが大切だと思います。今回、以前から注目していた奥田さんにシステムを使っていたことができました。現在、まだまだ進化中のシステムだと思っています。番組枠ごとにテロップが変わる、多彩なカメラワークによる演出があるなど、海外のビジュアルラジオに一番近い形で放送されている奥田さんの番組で、3人で話をしたら3人のワイドショットにする演出をするなど、さらなる提案をしていきたいと考えています。それができるのも、パナソニックさんの柔軟なカメラがあればこそです。このカメラに対する期待は大きいですよ。

【VidiGo Live 問い合わせ先】
ジャパンマテリアル株式会社 <http://www.jmgs.jp/>

■システム構成

